

第1問 例にならって次の和歌の掛詞と縁語とを指摘せよ。

(例) 下燃えに思ひ消えなむ煙けぶりだに跡あとなき雲の果てぞ悲しき

『新古今和歌集』

- ・ 掛詞：「思ひ」↓「思ひ」と「火」
- ・ 縁語：「燃え」「火」「消え」「煙」

初瀬はつせに詣まうでて帰かへさに、飛鳥川あすかがはのほとりに宿りて侍りける夜、よみ侍りける。

故郷へ帰らんことは飛鳥川渡らぬさきに淵瀬ふちせたがふな

『新古今和歌集』

第2問 次の文章を読んで後の問い（問1・2）に答えよ。

八月になりて、二十余日の暁がたの月、いみじくあはれに、山の方はこぐらく、滝の音も似るものなく眺められて

思ひ知る人に見せばや山里の秋の夜深き有明の月

『更級日記』

問1 波線部「られ」と同じ意味のものを、次の①～⑤の傍線部のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- ① 今日は都のみぞ思ひやらるる。
『土佐日記』
- ② 上より御文持て来て、「返事ただいま」と仰せられたり。
『枕草子』
- ③ 君はとけても寝られ給はず。
『源氏物語』
- ④ 小君には、「かくなむ思ひ寄れる」とのたまひ契れり。
『源氏物語』
- ⑤ 雨に降りこめられてゐたるに
『古本説話集』

「 「 「

問2 傍線部「思ひ知る人に見せばや」を「思ひ知る人」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

「 「 「

「 「 「